

青森県におけるゴボウ黒条病の発生確認

野菜研究所

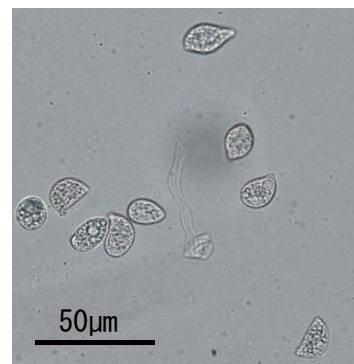
2017年8月に野菜研究所のゴボウ栽培圃場で黒条症状が発生しました。病原を調査した結果、本県において初確認となる「ゴボウ黒条病（くろすじびょう）」によるものであることが明らかとなりました。県内の産地でも同様の症状が広く見られ、同病の可能性あります。

症状および特徴

- ◆ 病原菌はカビの一種（イテルソニリア属菌）。
- ◆ **葉脈や葉柄**を中心に発生する。はじめ葉脈や葉柄に淡褐色の小病斑を生じ、その後黒褐色～黒色の病斑が拡大してすじ状の病斑となる。拡大とともに病斑の中心部は陥没し、病斑部から折れやすくなる。**気温20℃以下の多湿条件下**で発生しやすい。



葉脈に発生した黒条病の症状



イテルソニリア属菌の胞子



病斑の陥没した部分から雨や風で折れやすくなる

収量に影響

防除対策

- ◆ 適期に登録のある薬剤を散布する。
- ◆ 罹病残渣が翌年の伝染源となる可能性があるため、集めて処分する。
- ◆ 連作を避ける。

お問い合わせ

野菜研究所 病虫部 (Tel 0176-53-7171)